

指定校番号	28111	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立吉和中学校	校長	村田 聡之	生徒指導主事	濱原 光伸
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『吉中太鼓』

取組のねらい『キーワード 自己存在感を高める』

吉中太鼓は今から30年前、「荒れた学校の立て直しと居場所を無くした生徒の学校への定着」を念じて生まれたものです。当時の吉和中学校は、暴力行為も多発し、学校に位置付かない生徒たちを、どうやったら学校に位置付かせるか、課題のある生徒の居場所づくりを目的として誕生しました。その後、吉中太鼓を通じて自己存在感を高めることを目標に、全生徒を対象として、総合的な学習の時間を利用し、「心で打つ太鼓」を目指しています。



取組の具体的内容『キーワード 主体的な学び』

太鼓の練習は、総合的な時間を利用し、6月からスタートし、3月(12月は無し)まで、毎週学年に応じた練習を行っています。文化祭やバチの受け渡し式ではそれぞれの学年が、練習してきた成果を発表しています。また、3年生は校内での発表にとどまらず、地域のイベントや、尾道市のイベントにも積極的に参加しています。

吉和こども祭り(8月)	運動会(9月)	吉和地区敬老会(9月)
尾道トラック祭り(9月)	吉和町民フェスティバル(11月)	文化祭(11月)
尾道青少年健全育成大会(11月)	バチの受け渡し式(3月)	



発表の場をいくつか設定することで、1・2年生は、3年生の太鼓を目標に、3年生は今回の演奏よりは次回の演奏と、録画したビデオで自分たちの演奏を振り返り、曲を聴いてくれる方々をいかにして感動させるかを、自ら考え課題を持って練習に励んでいます。

取組の課題・創意工夫『キーワード 継承』

現在の3年生が30期生となり、練習は退職された吉中太鼓創始の先生の協力のもと、本校職員で指導に当たっている。しかし、誰もが指導できるわけではなく、メインで指導している職員も本校の在職期間が長く、次の指導の後継者に毎年悩んでいる。

生徒については、毎年3月に「バチの受け渡し式」を通じ、儀式的に次の吉中太鼓のリーダーを育てる取組につながっている。



取組の成果（効果）『キーワード 太鼓が人を変える』

3年生になり、人前での発表が増える頃になると、3年生の意識が変わり、ルールを守らなかった生徒も、リーダーや周りの生徒の声かけにより、次第に集団の中に入って行っている。

更に太鼓の頭(リーダー)は、太鼓の練習を仕切るだけにとどまらず、吉和中学校を仕切っていくリーダーとして大きく成長し、吉和中学校に在籍するすべての生徒のあこがれのリーダーへと成長している。



今後の展開『キーワード 吉和中で学んで良かった』

ここ数年、本校への入学者が大きく減っている。吉中太鼓の取組を通して、主体的な学びを継承し、生徒の自己存在感を高め、吉和中で学んで良かったと言える生徒を多く輩出していきたい。



他校へのアドバイス『キーワード オリジナル』

ひとつの行事を継続することの大切さと、自分の学校にしかできない学びを大切にしたい。